



Donald A. Norman: The Psychology of Everyday Things

Basic Books (1988)

(邦訳) 野島久雄 訳：誰のためのデザイン？ — 認知科学者のデザイン原論

新曜社 (1990)

ヒューマンインタフェース (HI), あるいは, コンピュータヒューマンインタラクション (CHI) は, 認知科学, 心理学, コンピュータサイエンスなどを母体として, およそ 1980 年代の半ば頃成立した, 比較的若い学問分野である. 今では, コンピュータサイエンスの重要な 1 分野であるが, ここには, かつてのピュアなコンピュータ科学者が多数流入している. かくいう評者も, かつての言語処理系論からヒューマンインタフェースに専門を鞍替えした 1 人である.

ヒューマンインタフェース成立の直接のきっかけとなったのは, 1984 年 12 月にモントレールで開かれた “User Centered System Design” (略して UCSD) と呼ぶワークショップであった. その結果は 2 年後に同じタイトルで本にもなっている¹⁾. その本の編者の 1 人が, 当時 UCSD にいた認知科学者 Donald A. Norman であった.

Norman はさらに 2 年後に本書を書き表す. この本は, ヒューマンインタフェースの古典的名著であり, バイブルと言っても過言ではない. 実によく読まれている. 原著のタイトルは The Psychology of Everyday Things で, 省略すると POET になる. 日本語の訳書のタイトルは, 「誰のためのデザイン？」というなかなか, 洒落たものである. なお, 英語のペーパーバックは 2002 年に再版されたとき, タイトルが The Design of Everyday Things (略して DOET) となった. 内容的にはこの方があってはいるが, 言葉の響きとしては最初のものの方が良いので, ちょっと残念である.

この本では, Gibson が提唱したアフォーダンスという概念を, インタフェースの分野に持ち込んでいる. アフォーダンスだけではなく, 可視性や対応付けが使い勝手を良くするデザインには重要な原則であることを, 多くの事例により明らかにしている. さらに, 人間が行為を行う際に, ゴール, 意図の形成, 行為の詳細化, 行為の

実行, 外界の状態の知覚, 外界の状況の解釈, 結果の評価, の 7 つの段階があるとした上で, 実行と評価にそれぞれ, 隔たり (ギャップ) があるとしている. これが有名な Norman の 7 段階モデルである.

また, 最近医療事故や航空機の事故などでよく言われる「ヒューマンエラー」という言葉に関しても, 「人がエラーをするのは, そのものがよく考えられていなかったり, デザインが悪かったりするときなのである」と, 明瞭にヒューマンインタフェースの立場を表明している. つまり, 従来の認知科学のように, 単に分析するだけではなく, 問題があれば, それに対処するために新しくデザインを工夫していくことに, 新たなヒューマンインタフェースの意義を求めている.

この本に引き続き, Norman は次々と自分の立場を明らかにする著述を行ってきた. そのほとんどは, 使いやすさを最も優先し, みかけの美しさなどの芸術的な点は, 二の次, としていたが, 最新刊の Emotional Design²⁾ ではこの点を改め, 美しいもの, すなわち魅力的なデザインも人間のポジティブな感覚を強めることから, 結果的にユーザの使い勝手に影響を与える, というように微妙にその見解を修正している.

その後のいくつかの概念の追加や修正などがあるものの, Norman に代表されるヒューマンインタフェースの理念は, この POET (= 誰のためのデザイン?) にその原点があることは変わらず, 今後もますます必読の古典として読み継がれていくものと考えられる.

参考文献

- 1) Norman, D. A. and Draper, S. W. (Eds.): User Centered System Design - New Perspectives on Human-Computer Interaction, Lawrence Erlbaum (1986).
- 2) Norman, D. A.: Emotional Design: Why we love (or hate) everyday things, Basic Books (2004). (邦訳) 岡本 他 訳: エモーションナル・デザイン - 微笑を誘うモノたちのために, 新曜社 (2004).

(平成 16 年 12 月 3 日受付)

安村通晃 / 慶應義塾大学環境情報学部
yasumura@sfc.keio.ac.jp